

件名	放射性廃棄物の管理状況（平成24年度年報）
通報日	平成25年5月10日
概要	<p>平成24年度の放射性廃棄物管理状況は以下の通り。</p> <p>各号機等の排気筒や排水口の詳細については、別紙「放射性廃棄物管理状況（平成24年度年報）」参照。</p> <p>1. 放射性気体廃棄物の放出量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全希ガス：検出限界未満（年間放出管理目標値 6.7×10^{15} Bq） ・ヨウ素 131：検出限界未満（年間放出管理目標値 2.3×10^{11} Bq） ・全粒子状物質：検出限界未満 ・トリチウム：1.7×10^{12} Bq^{※1} <p>〈備考〉放射性気体廃棄物の放出放射能（Bq）は、排気中の放射性物質濃度（Bq/cm³）に排気量（cm³）を乗じて求めている。 検出限界濃度は以下のとおり。 全希ガス：2×10^{-2} Bq/cm³以下 ヨウ素 131：9.2×10^{-9} Bq/cm³以下 全粒子状物質：4.8×10^{-9} Bq/cm³以下（コハルト 60 で代表）</p> <p>※1 7号機主排気筒放射線モニタサンプリング配管接続部の不具合が見つかったため、測定系への外気の流入量から補正した値である。</p> <p>2. 放射性液体廃棄物の放出量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全核種（トリチウムを除く）：検出限界未満 （年間放出管理目標値 2.5×10^{11} Bq） ・トリチウム：2.6×10^{11} Bq （年間放出管理目標値：設置許可申請書において、周辺公衆の線量評価上 2.5×10^{13} Bq を用いている） <p>〈備考〉放射性液体廃棄物の放出放射能（Bq）は、排水中の放射性物質濃度（Bq/cm³）に排水量（cm³）を乗じて求めている。 検出限界濃度は以下のとおり。 全核種（トリチウムを除く）：2×10^{-2} Bq/cm³以下（コハルト 60 で代表） トリチウム：2×10^{-1} Bq/cm³以下</p> <p>3. 放射性固体廃棄物の管理状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固体廃棄物貯蔵庫ドラム缶保管量：32,516本 （貯蔵設備容量 45,000本） <p>4. 使用済制御棒、使用済樹脂等の管理状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料プール 使用済制御棒：800本 チャンネルボックス等：13,547本 ・タンク等 樹脂等：2,541m³ <p>注）放射性固体廃棄物および使用済制御棒、使用済樹脂等の管理状況については、期中発生量ではなく、期中末現在での量を示しています。</p>

放射性廃棄物管理状況(平成24年度 年報)

1. 放射性気体廃棄物の放出量

(単位:Bq)

		全希ガス	¹³¹ I	全粒子状物質	³ H	備 考
原子炉施設合計		ND	ND	ND	$1.7 \times 10^{12} \text{ ※4}$	放射性気体廃棄物の放出放射能(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm ³)に排気量(cm ³)を乗じて求めている。 なお、放出放射能濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。 検出限界濃度は以下のとおり。 全希ガス: 2×10^{-2} (Bq/cm ³)以下 ¹³¹ I: 9.2×10^{-9} (Bq/cm ³)以下 全粒子状物質: 4.8×10^{-9} (Bq/cm ³)以下 (⁶⁰ Coで代表した) また、原子炉施設合計値は、端数処理のため、排気筒別内訳の合計値と一致しない場合がある。 (全希ガスについては、測定指針 [※] の測定下限濃度を記載したが、 ¹³¹ I及び全粒子状物質の検出限界濃度は、測定指針 [※] の測定下限濃度を上回っているため、検出限界濃度の最大値を記載した。 [※] 発電用軽水型原子炉施設における放出放射性物質の測定に関する指針)
排気筒別内訳	1号機排気筒	ND	ND	ND	1.4×10^{11}	
	2号機排気筒	ND	ND	ND	4.1×10^{10}	
	3号機排気筒	ND	ND	ND	1.4×10^{11}	
	4号機排気筒	ND	ND	ND	2.0×10^{11}	
	5号機排気筒	ND	ND	ND	3.1×10^{11}	
	6号機排気筒	ND	ND	ND	4.8×10^{11}	
	7号機排気筒	ND	ND	ND	$4.1 \times 10^{11} \text{ ※4}$	
その他排気筒	焼却炉建屋排気筒(荒浜側)	異常なし ^{※1}	ND	ND	4.8×10^8	
	焼却炉建屋排気筒(大湊側)	異常なし ^{※1}	ND	ND	6.7×10^9	
	固体廃棄物処理建屋排気口	※2	※3	ND	※3	
年間放出管理目標値		6.7×10^{15}	2.3×10^{11}	—————	—————	

※1 通常レベルから変動していないことを確認して「異常なし」としている。

※2 全希ガスは廃棄物中に含まれないため管理対象外としている。

※3 ¹³¹I及び³Hの発生量は無視できる程度と評価できることから管理対象外としている。

※4 7号機主排気筒放射線モニタサンプリング配管接続部の不具合が見つかったため、測定系への外気の流入量から補正した値である。

2. 放射性液体廃棄物の放出量

(単位:Bq)

		全核種 (³ Hを除く)	核種別						
			⁵¹ Cr	⁵⁴ Mn	⁵⁹ Fe	⁵⁸ Co	⁶⁰ Co	¹³¹ I	
原子炉施設合計		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
排水口 別内訳	1号機排水口	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	3号機排水口	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	5号機排水口	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	6号機排水口	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	7号機排水口	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
年間放出管理目標値		2.5×10^{11}	_____						

(続き)

		核種別			³ H	備 考
		¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	その他		
原子炉施設合計		ND	ND	ND	2.6×10^{11}	放射性液体廃棄物の放出放射能(Bq)は、排水中の放射性物質の濃度(Bq/cm ³)に排水量(cm ³)を乗じて求めている。 なお、放出放射能濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。 検出限界濃度は以下のとおり。 放射性液体廃棄物(³ Hを除く): 2×10^{-2} (Bq/cm ³) 以下 (⁶⁰ Coで代表した) ³ H: 2×10^{-1} (Bq/cm ³) 以下 また、原子炉施設合計値は、端数処理のため、排水口別内訳の合計値と一致しない場合がある。
排水口 別内訳	1号機排水口	ND	ND	ND	ND	
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	3号機排水口	ND	ND	ND	ND	
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	5号機排水口	ND	ND	ND	2.6×10^{11}	
	6号機排水口	ND	ND	ND	2.2×10^8	
7号機排水口	ND	ND	ND	ND		
年間放出管理目標値		_____			_____ ※	

※ 設置許可申請書において、周辺公衆の線量評価上 2.5×10^{13} Bqを用いている。

3. 放射性固体廃棄物の管理状況

	固体廃棄物貯蔵庫				貯蔵設備容量(本相当)
	ドラム缶		その他*	合 計	
	均質固化体	雑固体	雑固体		
当該年度の発生量	0 本	4,525 本	0 本相当	4,525 本相当	45,000
当該年度の減少量	0 本	5,007 本	0 本相当	5,007 本相当	
発電所内減量	0 本	3,607 本	0 本相当	3,607 本相当	
発電所外減量	0 本	1,400 本	0 本相当	1,400 本相当	
当該年度末の保管量	0 本	32,516 本	0 本相当	32,516 本相当	

※ドラム缶に詰められない大型機材等であって、200Lドラム缶に詰めた場合の推定本数。

4. 使用済制御棒、使用済樹脂等の管理状況

	使用済燃料プール		タンク等
	制御棒	チャンネルボックス等	樹脂等
当該年度の発生量	27 本	408 本	56 m ³
当該年度の減少量	0 本	38 本	0 m ³
当該年度末の保管量	800 本	13,547 本	2,541 m ³